

## 第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

### 小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	会津若松市立神指小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	数と計算領域を中心とした主体的・対話的で深い学び

#### 〈活動・研究の意義および活動報告〉

##### 1 活動に至る経緯

本校は4年間国語科の授業の充実を図る研究を行ってきた。その結果、全国学力学習調査では、国語科では全領域で平均正答率が全国・県を上回った。しかし、算数科においては、設問別にみると「道のりと時間の関係」（3、4、5年）、「条件にあう時刻」（2年）、面積の求め方（5年）などにつまずきが見られた。県独自の学習調査では、「数の比較」（4年）、「数と計算」領域全般（5年）、「小数のわり算」（6年）などに課題があった。そこで今年度は、算数科の基礎となる「計算力」を身につけさせるべく算数的活動の充実を図りながら、「数と計算」領域を中心とした研究を進めたい。

算数科は、特に、各学年での既習事項の定着、指導事項の系統性、学びの日常化が重要である。また、計算の過程や考え方について、根拠に基づいた説明の仕方やまとめでの算数的表現の活用にも取り組む必要がある。また、通常学級に在籍している多数の特別支援適な児童への指導についても、インクルーシブ教育の視点や「個別最適な学び」の観点からもかなりの配慮や教員の指導力が必要である。すべての子どもたちが、「主体的・対話的で深い学び」ができるようにするために、「すぐに」「その場で」活用できる課題解決における思考ツール「算数アイテム」を自校で作成し取り組みたい。また、一人1台端末や電子黒板を利活用した授業の展開も非常に有効であると考え。しかしながら、指導者のICTスキル不足が深刻な状況であり、かつ、研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励が令和5年度から施行され、教員が研修を深めることが不可欠であるが予算措置が十分でないことが大問題である。教員の資質及び指導力の向上と次代を担う子どもたち一人ひとりの夢や目標の達成のため、誰一人取り残さない指導の徹底を図ることが急務である。

##### 2 活動・研究の目的（ねらい）

- （1）対象者 1学年～6学年（67名） \*少人数教育を生かし、全校体制で取り組む。
- （2）教科 算数 ～「数と計算」領域を中心とした算数的活動の充実を通して～
- （3）ねらい

- ① 「身につける力」を意識して、自分の考えを明確にし、「主体的・対話的で深い学び」につながるような活動をすることで、思考力・判断力・表現力を高めることができるようにする。
- ② 一人一台端末や電子黒板を効果的に活用し、「個別最適な学び」、「協働的な学び」を図りながら「数と計算」領域について確かな学力を身につけることができるようにする。
- ③ 「算数アイテム」や一人一台端末を使って課題を解決したり、考えたことを説明したりすることができるようにする。（インクルーシブ教育の視点も含めて）
- ④ 「身についた力」をもとに、新たな問題や発展問題に挑戦することができるようにする。

##### 3 活動内容

###### （1）活動の特色

- ① 働かせたい数学的な見方・考え方や育みたい資質・能力を踏まえた指導計画の作成
  - ・「計算のきまりミッションクリア計画」等を作成し、見通しを持たせる。
  - ・ICTを効果的に活用できるよう、指導計画に適切に位置づける。
- ② 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
  - ・既習事項の掲示、課題解決における思考ツール「算数アイテム」（自校で作成）を全校生分作成し、「算数アイテム」を生かした思考の可視化をする。

③ 「何ができるようになったのか」を評価する方法の工夫・改善

- ・「算数アイテム」を使ってキーワードからまとめを考えたり、適用問題に取り組みさせることで、「できたこと、分かったこと」の振り返りをする。(インクルーシブ教育の視点・個別最適な学び)
- ・一人一台端末や電子黒板を活用して、自分の考えを振り返るとともに、課題解決のための互いの考えを共有することで、発展問題等に積極的に取り組むことができるようにする。(協働的な学び)

(2) 活動時期および内容

① 現職教育

- 5月・・・第1回全体会(研究計画, 研究構想の策定他)
- 5月・・・第2回全体会(研究授業年間計画, 神指SD他)
- 6月・・・児童の実態調査と分析

	事前検討会	研究授業	学年等	単元	事後検討会
6月	13日	19日	第1学年	のこりはいくつ ちがいはいくつ	23日
7月	1日	7日	たんぼぼ学級	あまりのあるわり算	11日
9月	2日	9日	第6学年	割り算の表し方を調べよう	12日
9月	21日	26日	第5学年	分数のたし算、ひき算を広げよう	28日
10月	17日	24日	第4学年	計算のやくそくを調べよう	26日
11月	16日	21日	第2学年	新しい計算を考えよう	23日
11月	20日	24日	第3学年	分数を使った大きさの表し方を調べよう	27日

- 12月・・・児童の実態調査と変容・第3回全体会(研究のまとめ)
- 2月・・・第4回全体会(今年度の反省と次年度に向けて)

② 他教科との関連(互見授業)

6月	体育	6学年および3年初任研授業
7月	社会	5学年および3年初任研授業
9月	国語	4学年および3年初任研授業
10月	道徳	5学年(特別支援学級)および3年初任研授業
10月	総合	6学年および3年初任研授業
11月	算数	1学年および3年初任研授業
12月	学活	2学年および3年初任研授業

\*神指SD(本校独自の授業参観の視点チェックシート)を参観の視点として授業参観する。  
\*互見授業時には、「感想カード」を使って授業への感想・アドバイス等を書い

4 子どもたちへの効果(成果・課題)

(成果)

- ① 「身につけたい力」を設定することで、学習する内容や「身につける力」が明確になり、単元を通して児童及び教員相互が目指す姿を意識しながら授業に取り組むことができ、単元のゴールに向かっていくことで、見通しをもちながら「主体的・対話的で深い学び」に取り組むことができた。
- ② 既習事項の掲示、課題解決における思考ツール「算数アイテム」(自校で作成)を生かして、自己選択したことで、子どもたち一人一人が個に応じて自分の考えをまとめることができた。
- ③ 一人一台端末や電子黒板の活用により、振り返りや習熟の時間が効果的に確保でき、「身につけたい力」の定着が図られたと共に、発展問題等にも進んで取り組むことができるようになった。
- ④ ICTを活用した授業を展開したことで、教員の資質及び指導力の向上が図られ、そのことに伴って、特別支援適な児童を含めて、「数と計算」領域での学力向上が期待され、時代を担う子どもたちに「確かな力」(学力・思考力・判断力・表現力など)を身につけさせることができた。

(課題)

- ① 「身につけさせた力」の設定には、客観的な資料に基づいた分析・活用が不可欠であり、児童及び教職員同士の共通理解も十分に行いながら、継続した取り組みが必要である。
- ② 助成金の活用により、自校で「算数アイテム」を作成した結果、子どもの思考ツールが生まれ、自分の考えをまとめる力が身についたが、今年度の反省を生かし、次年度の指導に生かす必要がある。
- ③ 一人一台端末や電子黒板の活用により、振り返りの時間や習熟の時間が確保できたことで、「身につけさせたい力」の定着が見られ、発展問題等にも進んで取り組むことができるようになったが、上位層や中位層だけでなく、下位層にも対応できるよう全職員で工夫する必要がある。
- ④ ICTを活用した授業は、時代を担う子どもたちに「確かな力」(学力・思考力・判断力・表現力など)を身につけさせるために非常に有効であったが、教員のICTスキルに若干の開きがまだまだ見られるので、より一層現職教育の充実を図る必要がある。